

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0292600020		
法人名	有限会社 とんぼう (委託運営会社 株式会社 介護問題研究所)		
事業所名	さくらの里ひがしどおり		
所在地	〒039-4223 青森県下北郡東通村大字小田野沢字中川目55-342		
自己評価作成日	平成30年6月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号
訪問調査日	平成30年7月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・降雪期除く4月～10月に、観桜会や菜の花見学、村内の祭り、紅葉狩り等、外出行事を企画している。</li> <li>・外出行事以外の、施設内でのイベントを毎月企画している。(誕生会を含む)</li> <li>・食事については、村内で取れた野菜のほか、海産物を使用し、馴染みの食事(郷土食)をできるだけ提供している。</li> <li>・身体拘束をしないケアの実践に努めている。</li> <li>・毎月テーマを決めて勉強会を実施し、研修報告会や伝達講習会等から全職員で共有を図り、スキルアップに努め、介護現場に還元してけるよう、全職員が一体となって、サービスを提供している。</li> <li>・ミニトマトやラディッシュ等をプランターに植え、利用者と一緒に鑑賞・収穫を楽しんでいる。</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>村で唯一のグループホームとして、村役場や村民と連携する等、地域との関わりを大事にし、事業所を理解してもらえように取り組んでいる。「できるだけ自分ことは自分でやる」という思いを大切に、利用者が誇りや喜びを感じることができるよう、日々、理念を反映させた支援を行っている。</p> <p>また、毎月、外出等を企画しているほか、旬の食材や郷土料理を多く取り入れる等、利用者が日々、楽しく生活していけるように努めている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念及び運営方針をホールに掲示しているほか、事業計画作成時等に、全職員に周知している。また、理念に基づき、相手の立場を理解し、支援に努めている。	ホームの開設準備期間に、全職員で理念を作成し、ホームに掲示している。また、事業計画作成時や月1回の職員会議では、「基本理念」「ケア理念」「実践目標」を確認する等、全職員で理念を共有し、理解を深められるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事や村内の行事(来さまいフェスタ等)へできるだけ参加している。また、地域の伝統的な小正月行事である「餅つき踊り」を地域の婦人会にお願いし、施設内で舞っていただく等、交流を深めている。	地域の婦人会を招待し、餅つき踊りの小正月行事やほたる歌謡クラブとの交流を図るため、働きかけを行っている。また、地域の能舞やイベント等へ参加し、ホームを理解してもらいながら、地域との交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センター主催の地域ケア会議へ参加し、処遇事例の発表等を通じて、処遇経験・知見を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議で、家族会の会長から「自宅での様子と現在の状況を比較し、落ち着いているのを見ると、専門職の関与が成果を発揮している」と評価をいただく等、職員にとって嬉しい意見もあり、意欲を高める契機となっている。また、自己評価及び外部評価結果を報告している。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、村担当課職員・地域包括支援センター職員・集落会長・家族会会長が出席し、活発な意見交換が行なわれている。また、取り上げられた報告・意見については検討し、サービスの質の確保・向上に役立てていくよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居状況は事あるごとに報告し、村担当者や地域包括支援センター担当者との連携は取れている。	村担当課が運営推進会議に出席し、情報提供面での連携が図られている。また、問題が生じた場合は解決に向け、その時々の内容により、電話や出向いて相談して、解決に至る等、良好な連携関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠に関する同意書を作成し、緊急やむを得ない場合及び医師の指示以外は、身体拘束をしないこととしている。また、身体拘束が必要な状態で入居する方もいるが、現在は、拘束をしていない。本人を取り巻く環境、原因因子を早期に改善し、取り組んでいる。	身体拘束は行わない方針で、日々のケアサービス提供に努めており、日々のサービスの中で、身体面に関してだけでなく、言葉による精神的拘束にならないように、職員同士で声かけをしている。また、やむを得ない場合は、身体拘束に関する同意書を得て、取り組む体制にある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設虐待について、潜在化することがないように、職員間の申し送り時、気づきがあれば、管理者やケアマネージャーに報告し、早期に対応できるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見について、受任している職員がいるので、成年後見制度及びその実際について、内部研修や定例会議等を活用し、理解を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込み時に概略を説明し、入居決定後は、契約書の説明を詳しく行い、十分納得いただいた上で、捺印いただき、契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約締結時、苦情受付のシステムを説明させていただいている。家族が気軽に相談できるように、来所時の声がけを励行している。	利用者の日常会話や態度等から、要望等を察した時には積極的に話しかけ、思いや希望を引き出すように努めている。また、出された意見・苦情等については、随時、管理者・職員で話し合い、対応策を検討し、管理者を通して、社長にも報告する体制となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝夕のミーティングや月1回の定例会議の場を活用し、意見、提案の有無を確認している。また、代表者及び管理者は、職員との普段の会話から、運営に関する改善点を見出すように努めている。	職員会議を月1回行っており、業務の改善策等を話し合っている。また、職員の意見が反映できるよう、担当制にしており、申し送り時やミーティング時に、利用者の状態、ヒヤリハット事例等を話し合い、共有を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員食を食材費程度の安価な設定とし、半分程度を職員互助会に入れている。また、無理のないソフト調整を行い、できるだけ職員が研修に参加できるよう、調整を行っており、職員のスキルアップに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、動きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士会、介護支援専門員協会等の研修会や地域ケア会議のケース検討会等を活用し、研修に参加している。また、研修受講後は、報告会等を行い、日々のケアに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	下北管内ほか、他グループホームを訪問し、意見交換及び指導をいただき、日々の支援に還元している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できるだけ本人に話を聞き、寄り添い、傾聴し、スキンシップを図りながら、不安を解消できるように努めている。また、認知症の症状や身体状況に応じたケアができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設利用までの経緯をじっくり傾聴し、その労苦を労うとともに、家族の意向を聞き、困っている事や不安を受け止め、信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族のニーズへ対応できるよう、努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の知恵や経験を活かし、洗濯物畳みやテーブル拭き等のできる事は一緒に行っている。また、ミニトマトや青しそ、ラディッシュ等を室内で栽培し、一緒に楽しみ、アドバイスをいただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	広報誌「さくら通信」や、毎月の写真入りお便り等で、状況を共有し、家族に協力してもらい、共に支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院の待合室で馴染みの人や親族に会うことがあり、会話したり、楽しみにしている。要望があれば、家族以外の人でも、来所の調整をし、面会していただいている。	入居時に、利用者や家族からの聞き取り等を行い、情報収集を行っている。また、日々の会話等から、馴染みの人や場所を把握している。通院時に、待合室で友人・知人からお土産等をいただく等、これまで関わってきた人との交流を継続できるように支援しており、希望があれば、随時、外出支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人同士の関係を把握し、言葉の強弱、表情の観察等から、必要であれば、介入、介助をし、適度な距離を保てるように支援している。レクリエーションや体操等、本人同士が関われる時間を作っている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了者は現在いないが、入居希望者に対して、施設の空き状況について、情報提供等を行っている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の性格や行動の状態等から、本人の思いや希望の把握に努めている。必要に応じて、面会に来た家族や関係者から、情報収集を行っている。	日々の暮らしの状況や日常会話、職員の気づきを話し合うことで、利用者の思いや希望、意向を把握するように努めている。意向等が十分に把握できない場合は、担当に関わらず、話を聞いたり、寄り添いながら、利用者の好きな事を見つけ、コミュニケーションに繋げており、全職員が利用者の視点に立って、意向等を把握するように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面談や、普段のコミュニケーション、本人や家族、関係機関から情報を収集し、生活歴の把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックや身体状態の把握、気分等、個々のペースに合わせ、観察し、職員間で周知を図り、ケアに努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の担当職員を決め、モニタリングをケアマネージャーと共同で行い、月1回の定例会議で検討している。会議以外でも気になる事があれば、随時、話し合いや情報交換をしている。	介護計画作成時には、担当職員の意見や職員会議での話し合いを通じて、ホームの「実践目標」を確認しており、可能な限り、本人の意見を聞くように努めている。また、ホームのケア理念や基本理念を再確認しながら、計画の作成に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の状態等、具体的に記録し、日々の申し送り直接話し合うことも多く、全職員で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに柔軟に対応できるよう、努めている。外出の際は、慣れ親しんだ場所をドライブする等、支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出ができない季節には、ボランティアに訪問を依頼している。また、能舞等の郷土芸能が盛んな地域のため、利用者の多くが愛着を持っており、DVDを提供していただき、鑑賞している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、本人や家族から聞き取りを行い、希望する医療機関を受診できるよう、支援している。村診療所の訪問診療も利用しており、かかりつけ医と連携をしている。また、かかりつけ薬局との関係も良好である。	かかりつけ医への継続受診や希望する医療機関への受診等、症状により、適切な医療機関を受診できるように支援している。また、希望に応じて、認知症等専門医の定期的な検診を受診できるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の申し送り等で、相談や確認をし、助言及び指示をもらい、協働できる体制としている。また、気軽に相談や質問をする等、医療連携との情報交換を密に行い、積極的に医療知識の吸収に努め、健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と連携し、入退院時の情報提供を行っている。また、本人、家族の希望等を考慮しながら、早期退院ができるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、終末期のあり方を家族に確認するとともに、重度化して施設での対応が困難となった場合、紹介・連携できる体制をとっている。状況の変化に合わせて、家族と話し合い、連絡を密にとっている。	ホームとして、重度化や終末期に対応しておらず、利用者や家族に対しては、入居時に文書で説明をし、ホームの方針を明確にしている。また、利用者が重度化し、ホームでの生活が困難になった場合は、他ホームを紹介する体制にある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設で発生しやすい事態や事故に対し、応急手当や初期対応の訓練を、定期的実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災対応マニュアル及び、原子力災害対応マニュアルを作成し、それぞれの関係機関と連携して、必要な訓練を実施している。火災想定訓練については、年2回、避難訓練を実施している。	消防署から指導をいただき、避難訓練を実施しており、具体的な避難誘導策を作成しているほか、原子力災害発生時に備えて、村と協力体制を築いている。また、災害発生時に備えて、米や冷凍食品等の食料のほか、飲料水や寒さをしのげる備蓄品や発電機を用意している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者が人生の先輩であるということを、常に念頭におき、その時々で丁寧な言葉遣いや方言等を使い分け、個人の思いを尊重するように努めている。	利用者の自尊心を傷つけないよう、言葉遣いに気を配り、全ての言動を受け入れ、発する言葉が心理的虐待にならないよう配慮している。また、気になる点等は申し送りや職員会議、サービス提供場面において、職員間で声をかけ合い、確認や改善に向けた取り組みを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重し、個々の残存能力に応じて、自己決定できるよう支援している。また、コミュニケーションを積極的に取り、意思を表せるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活習慣に配慮し、食事の時間等、本人のペースや心身の状態に合わせた支援を、柔軟に行っている。入浴等は代替日を設け、清潔を確保している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容を利用している。本人より希望があれば、髪染め等にも、柔軟に対応している。また、外出時は、一緒に服選びを行ったり、おしゃれを楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人や家族より嗜好を聞き取り、旬の食材や郷土料理を取り入れるようにしている。利用者と職員と一緒に食卓を囲み、楽しく食事の時間が過ごせるよう、声かけを行っている。また、食材の下ごしらえやお盆拭き等を職員と一緒にやっている。	献立には、旬の食材・郷土料理を多く取り入れ、不人気なメニューは外す等の配慮を行っているほか、調理師免許のある職員と話し合いながら、バランスを考慮した食事を提供している。また、利用者の状況に応じて、食材の下準備やお盆拭き等を、職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し、清涼飲料水の提供やおやつを用いて、本人の状態に合わせた支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合わせた口腔内・義歯洗浄をしている。就寝前には、義歯洗浄剤を使用し、能力に応じた支援や声かけをしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、尿意・便意の確認、状態に合わせたオムツとトイレ利用を行っている。オムツからパンツ型の紙オムツを検討し、トイレ誘導を行っている。	ほとんどの利用者の排泄が自立しているため、積極的な誘導は行っていない。一人ひとりの排泄パターンを記録することにより、各自のパターンや固有のサインを把握し、その人に合わせたトイレ誘導を行っている。また、毎日の状況観察により、オムツ使用から、パンツ型の紙オムツに変更したことで、排泄支援が改善された事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の摂取量や排泄状態を把握し、食事の工夫や乳製品の取り入れ、運動等の声かけをするにより、予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	本人の体調に合わせて、入浴を実施している。入浴を嫌がる利用者には、時間をおいて声かけする等、快適に入浴できるように支援している。また、入浴剤を使用し、入浴を楽しめるような工夫もしている。	その時々体調にもよるが、清潔保持の意味合いもあることから、週2回は必ず入浴するよう声かけをしている。職員は、利用者の入浴の好みを把握して、入浴支援を行っている。また、入浴を嫌がる時は、対応する職員や時間帯を代えたり、声かけの工夫を行い、無理せず次の日にする等、柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠の条件等を調べ、利用者個々の寝具や室温設定、照明の希望等を考慮し、対応している。特に冬期間、足先が冷える人には、湯たんぽを使用して対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の飲み忘れや誤薬がないように、見守りや介助を行い、職員二人で二重に確認をしている。また、かかりつけ医と連携を取りながら、薬の変更時は、申し送り等で全職員が把握できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出行事における食事については、事前にメニューを取得し、本人に選んでいただいて、好きなものを食べられるようにしている。また、レクリエーション等の集団行動だけではなく、軽作業等、個々の能力に応じた役割分担をし、張りのある生活が送れるように支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出行事を行ったり、地域行事や村内の行事に参加し、交流を図っている。また、本人の思いに沿えるように家族と調整したり、できるだけ対応している。	ホームの横が道路のため、日常的に散歩を行うことは難しいが、通院介助時を利用して、日頃から外出支援に取り組んでいる。また、お花見や菜の花観賞、紅葉ドライブ等、季節を感じていただけるような年間行事予定を作成し、利用者の身体状況等に配慮しながら、実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者一人ひとりの小口の現金を預かっており、希望に応じて自由に使えるよう支援している。また、外出行事等では、自分で支払えるよう、事前に持たせ、買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの手紙は、手渡すだけでなく、職員が代読する等の支援をしている。家族からの電話で、本人がやり取りできない時には、職員が介入する等の対応をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂ホールには、小上がりがあり、昭和時代初期に使用されていた茶ダンスを設置し、和の小物を展示している。また、自宅で使用していたサイドボードをテレビ台にする等、生活感を演出している。春には、畳の間に雛飾り、秋にはテーブルを置き、月見団子を飾る等、生活に変化を持たせるよう、工夫している。	室内は明るく、白や木目調とした造りとなっている。ホールや廊下には、季節を感じられる夏祭りの提灯や七夕飾り等、職員と利用者と一緒に作成した作品が飾っているほか、季節の行事等で撮影した利用者の写真や手形も飾っている。また、各居室の出入り口の壁には、ごみやわらび等、山菜の名前を飾り、工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にソファを3つ用意し、各利用者のお気に入りの場所ができています。畳の間に座布団を敷いて、横になったり、それぞれの居場所ができています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内のベッドやマット以外は、本人や家族が持参できることになっており、馴染みの物を使用していただいている。各居室には、コルクボードを設置しており、写真等を貼り付けて飾っている。	入居時に、できるだけ馴染みの物を持参していただけるように声がけをし、衣装ケースや家族の写真、置物等を持参しているほか、入居後も必要があれば、家族にお願いしている。また、持ち込みが少ない場合は、本人の希望を聞きながら、行事等で撮影した写真や作品を飾る等して、安心して穏やかに生活ができるよう、居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室名を山菜系で統一し、分かりやすくしている。トイレの取っ手に、トイレと分かるように表示を追加している。また、馴染みのマスコットを下げたり、花をつける等の工夫をしている。		